

[dōnik]

DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DE MIE

事務局 津市東文之内21-4 オーデンビル

3F / Siege : Oden Building 21-4 Higashi-

Maruonochi Tsu JAPON ☎0592 (26) 3159

No 26 le 10 octobre 1993 SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DE MIE

< FETE D'AMITIE F - J. A KANAZAWA >

金沢で全国日仏協会会長会議

金沢日仏協会の設立20周年を記念する「金沢日仏市民友好祭」Fête d'Amitié Franco-Japonaise à KANAZAWA が10月2日、3日を中心に、金沢市文化ホールなどでくりひろげられ、これに合流する形で全国日仏協会会長会議が開催されました。三重日仏協会もこれに出席（代理）しました。メインテーマは「市民文化の今日と明日——フランス・日本・金沢・20年」。2日の記念式典にはフランス大使、石川県知事、金沢市長らも出席、フランソワーズ・モレシャンさんが「美しい町づくり」と題して講演しました。

このあと「パリ～ナンシー～金沢・三都物語」というテーマで日仏都市環境フォーラムがおこなわれ、夜は懇親会、3日は日仏会館フランス館長オリビエ・アンサール氏の基調講演のあと、「日仏親善交流フォーラム」（全国の日仏協会が参加）と「日仏経済技術フォーラム」が同時に開催されました。このほか、金沢市ではフランス・ウィークとして、デパートなどでフランス・フェアや展示会、シャンソン・ステージなどがくりひろげられ、金沢の街はフランス一色の感がありました。（詳細は次号にでも）

なお、10月31日には、「日仏文芸フォーラム」、11月22日には「フランス音楽の夕べ」も予定されています。

◆◆小堀先生より本会へ多数の書籍◆◆

三重日仏協会が発足した当時、三重大学におられて尽力をいただいた小堀巖先生（現在明治大学教授）から、このほど日仏の書籍数十冊が本会に届けられました。その中からジョルジュ・シムノンの『メグレ』シリーズなどポピュラーなものを「パリ祭」の景品として使わせていただきましたが、大多数は事務局で保管しています。紙面の都合で次号からそのリストを紹介しますので、ご利用ください。

フランスの思い出、あれこれ

武田 治美

今年の夏、主人がヨーロッパで開かれる学会に出席するので、いいチャンスと思って家族全員で行きました。10年ぶりに見るフランス、なつかしい友人との再会、今回は通りすがりの短い旅行でしたが、変わったようで変わっていないフランスを見ると、若かった頃に受けた強烈な印象がよみがえってきました。

随分古い話になりますが、1976年10月1日、主人が在外研究員として留学するのに同行し、初めてフランスの土を踏みました。羽田からアンカレッジを経由してパリ、パリからマルセイユまで25時間におよぶ旅でした。空港ではムッシュウプチネリが出迎えてくれ、マルセイユ大学で登録を済ませた後、彼のアパートに案内してくれました。マダムプチネリと彼女の母親、その友人が私たちを待っていてくれました。私たちに彼のアパートのスミからスミまで案内してくれた後、初めてフランス式の昼食をご馳走になりました。アントレに始まりデザートまで次々と出されるお料理をほとんど何一つ躊躇する事なくたらふく味わいました。幸い私も主人も大変な大食漢（グルマン）なのです。その後、長旅で疲れているだろうと、私たちに彼ら自身のベッドまで提供してくれました。そしてその夜の夕食もご馳走になり、帰り際には、明日の朝食にと大小様々な形のリンゴ一袋とラルザシアンヌのビスケット一箱を私たちに持たせ、アパートまで送ってくれたのです。私はその夜、感激のあまり眠れなかったのを覚えています。

翌日、マルセイユの目抜き通り、カナビエール通りを歩いてみました。その時受けた強烈な印象を未だに忘れる事が出来ません。何と外国人（フランス人にとって）の多いのにびっくりしました。それもアフリカかあるいはベトナムからの外国人でした。

通りのハシからハシまで歩いてフランス人らしき白系の人は数える程しかお目にかからなかったのですから。道路はどこも犬の糞、人の顔ばかり見て歩いているわけにも行きません。そんなわけですから、私たちが外国人扱いされジロジロと見られる事など全くありませんでした。私が思い描いていたフランスのイメージ（花のパリ、芸術の都、etc）は完全に裏切られました。“ヌ ソム ジャポネ”と言っても、日本がどこにあるのか知らない人もいたのですから、私たちも自然と、当時多くいたベトナム人と間違えられていたようです（後に、数人のベトナム人と仲良くなりました。国から着の身着のまま逃げてきた彼らの話を聞くと、平和な日本でくらすありがたさがわかりました）。道路を歩いてフランス人が私たち外国人にも平気で道を尋ねてくる（もちろんフランス語で）のにもびっくりしました。外国人が根をおろして生活している国だとの思いを深くしました。

フランス人とつきあうようになってくると、我々日本人との比較をしなくなってきました。フランス人はたいへん自己をアピールするのが上手だと思います。自分の意見をはっきり言う態度は小さいときから養われていますし、皆とても話上手であるのは、私がいつも感心するところです。街頭インタビューにしても日本人ならマイクを向けられて逃げていく人も多いでしょうに、フランス人はこの時とばかり

声を大にして自分の意見を言うのですから。もちろん、そのための口論（喧嘩）もいたるところで見られますが。

言葉で自己をアピールするばかりでなく、行動でも自分の存在をアピールする様に私は思います。私が二度目に滞在したボルドーでの事です。当時、私たちは二歳になる長女をともなっている滞在中でした。どこに行くのも彼女をバギーにのせてつれて行ったのです。日本なら電車やバスにのるときには、バギーをたたんで子供を右腕に抱き、左手でバギーを持って乗るのが常でした。それがボルドーではいつも誰かが、特に男性が、手伝ってくれるのです。乗客であったり、またあるいは通りすがりの人だったり、必ず手を貸してくれました。また乗客に男性がいないときはバスの運転手自身がブレーキをひき、わざわざ降りて手伝ってくれたのにはびっくりしてしまいました。自然に備わった公共での道徳心なののでしょうか？これも自己の存在のアピールの一つではないかと私は思います。

今年の夏、11年ぶりでパリとボルドーに行ってきました。パリは昔ほど犬の糞が道路に落ちていると言うこともなく、町全体が少しきれいになり治安もさほど悪くないように思いました。その反面、随分アメリカナイズされ、マクドナルドなどのファーストフードの店が増え、フランス人もコセコセと手軽に昼食をとっている姿を目にしました。どこでも英語が話され、パリも随分“インターナショナル”な町になったと思いました。人情の方はどうなのでしょう？

ボルドーではずっと友人の家にお世話になりました。彼らの家は300坪ほどの敷地に80坪ほどの平屋建て。ボルドーでは、庭は家の裏にあるのが普通で、その庭にはアジサイやコスモス、ミモザなどが無造作に植えてあるのです。主人の友人のムッシュウデマゾーはワインと料理にうるさく、ガレージの地下の酒蔵（写真）には1000本以上のワインや自家製のコンポート・ドゥ・カナルなどが貯蔵してあります。



彼らの庭で太陽の光を浴びながら食事するのは至福の時といえます。これなら確かにおおらかな、穏やかな性格になりそうです。主人とほぼ同じ地位で給料も変わらないのにこの生活レベルの差はいつた何によるのでしょうか。

今回、ボルドー滞在中（と言っても郊外のグラディニアンと言うところですが）、別の友達のレバシユール一家と近くの森林公園に行きました。何ヘクタールもある森林を公園にしたもので小道が縦横に走っています。私たちの子供は大喜びで、駆け出しました。彼らは借楽公園ぐらいのつもりでいたのですが、何しろ迷路のように道が入り組んでいるのでちょっと目をはなしたすきにどこへ行ったか分からなくなりました。なかなか見つからず、一時間もたつと皆心配になってきました。近くでサイクリングやジョギングをしていた人たちが協力して探してくれましたがなかなか見つかりません。とうとう警察に連絡したら3分ほどで数人の警官が警察犬をつれて駆けつけてくれました。幸い、その後すぐに、ジョギングをしていた人が見つけてくれたので警察には無駄足をさせてしまいました。文句の一つも言われるかと思ったのですが、大きな松ぼっくりを手にした息子を見て“フランス旅行で一番の思い出がくれたねえ”と笑いながら、“いい旅行を”と言って帰って行きました。みんなの親切や、警官のおおらかな態度に接してやはりフランスは私にとってステキな国です。

渡辺先生がご転任

三重大学人文学部の渡辺芳敬先生は、10月1日付で横浜市立大学に転任されました。渡辺先生は1989年三重に赴任されて以来、三重日仏協会のフランス語講師として献身的に活動され、その魅力的な人柄から多くの会員にたわかれていました。またこの間「群像」評論新人賞を受賞されるなどの活躍をされ、その映画通ぶりも定評がありました。感謝とともに、今後のご発展をお祈りします。

後援事業 本会会員によるリサイタル

針谷斐子ソプラノリサイタル
 (フランス歌曲の夕べ)
 10/22 (金) pm6:45
 津お城ホール 2,000円
 ピアノ伴奏 針谷宏弥
 ショーソン、ラヴェル等の歌曲

大廣朋子ピアノリサイタル
 10/30 (土) pm6:30
 津お城ホール 2,000円
 ドビュッシー 前奏曲第1集ほか

JETRO主催 **経済講演会** (アタッシェ・ティーチ・イン) **【入場無料】**
 10/21 (木) 14:00~17:00 津都ホテル 会議室 フランス総領事館 J・トレグロサ参事官ほか

みえ国際交流活動フェア

……写真で知る国際交流……

12/3 (金) ~6 (月) 津サンバレー・二階催し場

三重県国際交流財団の主催で、県下の多くの国際交流団体の活動をパネルや写真で展示・紹介します。三重日仏協会も出展の準備中です。

7/11「パリ祭」

〈le 14 juillet '93〉は3日早い11日の日曜日、津市の DADA で開催、これまで最高の60人余りが参加しました。今年地元のアマチュア・シャンソン歌手 <OVNI> が出演、『桜ん坊の実る頃』『枯葉』などを歌って雰囲気を盛り上げてくれました。



8/18~22 フレネ子ども美術展とシンポジウム

(後援事業)

子どもの個性と協調性を重視し、自由な美術教育で世界に注目されるフランス・フレネ学校の作品展は、8月三重県立美術館県民ギャラリーで開催され、この種の展覧会では異例の二千数百人の熱心な観客を集めました。また初日におこなわれたシンポジウムにも、講堂に満員の200人余が参加しました。